

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成30年8月9日(2018.8.9)

【公開番号】特開2015-127953(P2015-127953A)

【公開日】平成27年7月9日(2015.7.9)

【年通号数】公開・登録公報2015-044

【出願番号】特願2014-241692(P2014-241692)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/048 (2013.01)

G 0 6 F 3/0488 (2013.01)

G 0 6 F 3/02 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/048 6 5 4 A

G 0 6 F 3/048 6 5 6 A

G 0 6 F 3/048 6 2 0

G 0 6 F 3/02 3 1 0 Z

【手続補正書】

【提出日】平成30年6月25日(2018.6.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

データを表示する表示部を備えた携帯端末であって、

ユーザの操作を受け付け可能なキーボードを前記データに重ねて前記表示部に表示する表示手段と、

前記表示部に表示されたキーボードと、前記表示部を操作するユーザの指示部との相対的な位置を検出する検出手段と、

を備え、

前記表示手段は、前記検出手段により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねて表示される前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする携帯端末。

【請求項 2】

前記検出手段は、前記表示部に表示されたキーボードと、前記表示部に触れていない前記ユーザの指示部との相対的な位置を検出することを特徴とする請求項 1 に記載の携帯端末。

【請求項 3】

前記表示手段は、前記表示部を操作するユーザの指示部が、前記表示部から所定の距離以内まで近づいたときには、前記検出手段により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねて表示された前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の携帯端末。

【請求項 4】

前記表示手段は、前記検出手段により検出された前記位置が、前記表示部を操作するユーザの指示部が前記キーボードの上部の位置である場合には、前記キーボードを透過させずに表示することを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項に記載の携帯端末。

【請求項 5】

前記表示手段は、前記検出手段により検出された前記位置が、前記表示部を操作するユーザの指示部が前記キーボードの上部の位置ではない場合には、前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の携帯端末。

【請求項 6】

前記表示手段により前記表示部に表示された前記キーボードに重ねられたデータがあるかを判定する判定手段を備え、

前記表示手段は、前記判定手段により、前記表示手段により前記表示部に表示された前記キーボードに重ねられたデータがあると判定されたことを条件に、前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載の携帯端末。

【請求項 7】

前記表示手段は、前記判定手段により、前記表示手段により前記表示部に表示された前記キーボードに重ねられたデータがないと判定されたことを条件に、前記キーボードを透過させずに表示することを特徴とする請求項 6 に記載の携帯端末。

【請求項 8】

前記表示手段により前記表示部に表示された前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にするか、前記キーボードを透過させずに表示するかを、前記ユーザの前記指示部により前記表示部を介して選択されることで決定する第 1 の動作モードと、前記検出手段により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねて表示された前記キーボードを透過された状態で表示する又は前記キーボードを非表示にするか否かを決定する第 2 の動作モードと、を含む動作モードのうち、いずれかの動作モードを選択する選択手段を備え、

前記表示手段は、前記選択手段により選択された動作モードで、前記表示手段により前記表示部に表示される前記キーボードの表示制御を行うことを特徴とする請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載の携帯端末。

【請求項 9】

前記選択手段は、前記表示手段により前記表示部に表示された前記キーボードに重ねられた文字数に応じて、前記第 1 の動作モード、又は前記第 2 の動作モードの何れかを選択することを特徴とする請求項 8 に記載の携帯端末。

【請求項 10】

データを表示する表示部を備えた携帯端末の制御方法であって、

表示手段が、ユーザの操作を受け付け可能なキーボードを前記データに重ねて前記表示部に表示する表示工程と、

検出手段が、前記表示部に表示されたキーボードと、前記表示部を操作するユーザの指示部との相対的な位置を検出する検出工程と、
を備え、

前記表示工程は、前記検出工程により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねられて表示される前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする制御方法。

【請求項 11】

データを表示する表示部を備えた携帯端末で実行可能なプログラムであって、

前記携帯端末を、

ユーザの操作を受け付け可能なキーボードを前記データに重ねて前記表示部に表示する表示手段と、

前記表示部に表示されたキーボードと、前記表示部を操作するユーザの指示部との相対的な位置を検出する検出手段として機能させ、

前記表示手段は、前記検出手段により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねられて表示される前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とするプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明は、データを表示する表示部を備えた携帯端末であって、ユーザの操作を受け付け可能なキーボードを前記データに重ねて前記表示部に表示する表示手段と、前記表示部に表示されたキーボードと、前記表示部を操作するユーザの指示部との相対的な位置を検出する検出手段と、を備え、前記表示手段は、前記検出手段により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねて表示される前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

また、本発明は、データを表示する表示部を備えた携帯端末の制御方法であって、表示手段が、ユーザの操作を受け付け可能なキーボードを前記データに重ねて前記表示部に表示する表示工程と、検出手段が、前記表示部に表示されたキーボードと、前記表示部を操作するユーザの指示部との相対的な位置を検出する検出工程と、を備え、前記表示工程は、前記検出工程により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねられて表示される前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

また、本発明は、データを表示する表示部を備えた携帯端末で実行可能なプログラムであって、前記携帯端末を、ユーザの操作を受け付け可能なキーボードを前記データに重ねて前記表示部に表示する表示手段と、前記表示部に表示されたキーボードと、前記表示部を操作するユーザの指示部との相対的な位置を検出する検出手段として機能させ、前記表示手段は、前記検出手段により検出された前記位置に応じて、前記データに重ねて表示される前記キーボードを透過された状態で表示する、又は前記キーボードを非表示にすることを特徴とする。